

2016年9月11日 礼拝メッセージ

聖書：使徒の働き 2章 37～47節

説教：私たちはどうしたらよいでしょうか

はじめに

ペテロは今日の箇所、「賜物として聖霊を受けるでしょう」と語っています。いったい自分は聖霊を受けているのか。皆さん半信半疑かもしれません。どのようにしたら聖霊を受けていることがわかるのか。今日はそのことを見て参ります。

イエスが十字架で処刑された日から数えて五十日目、五旬節と呼ばれる日のことでした。兄弟たちが一つ家に集まっていたとき、天から激しい風が吹くような音がしてエルサレムの町中に響き渡りました。人々が様子を見に集まってくると、十二カ国語に及ぶ外国語で神のみわぎを滑らかに語る兄弟たちがいました。ガリラヤ出身の田舎者たちですから、外国語など知るはずはありません。ありえない光景を見て人々は、いったいこれは何が起きたのかととまどいます。

そのときペテロが立ち上がり、語り始めました。五十日前にイエスと言う男が十字架で処刑されたけれど、実はあの方はダビデの子孫として来られた救い主であること。その方は三日目によみがえられ、そして今は父なる神の右についておられる。そのしるしとして主イエスは聖霊を送ってくださり、その結果、今このような出来事が起きているということを語ってから、最後にこう言います。36節。「ですから、イスラエルのすべての人々は、このことをはっきりと知らなければなりません。すなわち、神が、今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。」

1 なぜ心を刺されるのか

1) ペテロの熱心？

ペテロのことばは、まったく予想もしていなかったことでした。これを聞いて当然、反発する人たちもいたでしょう。そのいっぽうで、ペテロのことばを真正面から受けとめ、心を刺された人たちが三千人いたと記されています。あとき十字架のところに来て見物していた人もいたでしょうし、行かなかった人もいたでしょう。そのような違いはあっても、実際に自ら率先してイエスを十字架につけたわけではないはずで、それなのに、なぜこの人たちは心刺されるのでしょうか。

ペテロの語り方が雄弁で、すばらしかったからでしょうか。彼は確かに、どこで勉強したのかと驚くほどの旧約聖書の豊富な知識と理解力がありますし、理路整然と語っています。それも退屈な話し方ではない。非常に力にあふれていて、ぐいぐいと迫ってくるような語り方です。なので、人々は心を刺された。そうかもしれません。

ではどうしてペテロはこんなにも力強く語れるのでしょうか。わずか五十日前、ペテロは何をしたか。イエスが裁判にかけられていたとき、急に恐ろしくなってイエスを三度否定して逃げた。イエスが十字架で苦しんでいたときも、どこかの家に隠れていた。そんな人ですよ。イエスの「イ」の字も知らない。そう言い張っていた人がどうして今、こんなに力強くイエスのことを語れるのか。

七十年以上前のことですが、昨日まではア

メリカは敵だと言っていた人たちが、日本が戦争に負けた途端に手のひらを返すようにして、アメリカはすばらしいと言いだしたそうです。子どもたちはそういう大人を見てかなりショックを受けたと聞きました。ペテロもその口なのでしょう。まさかそんなはずはないでしょう。もしそうであれば、聞いていた人たちはすぐにわかるはずです。ペテロは自分のなかで、イエスを十字架につけた者であるのと自覚しながら真心から語っていると人々は感じています。でも、それだけで人々は心を刺されるものなのでしょうか。五十日というわずかな期間で人はこうも変わるものなのでしょうか。また、たった三十分とか一時間の説教を聞いただけで、人は心を刺されるものなのか。疑問は湧きます。

2) 聖霊の働き

私もいろいろ考えました。でも結局ひとつの理由しかないことに気がつきました。ペテロに聖霊が働き、そして聞いていた人たちにも聖霊が働いているからです。聖霊の働きによって、人々は心を刺されたのです。

天に上げられる直前にイエスはこう語っておられました。ルカの福音書 24 章 49 節。「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」

このイエスのことばに従い、ペテロを始めとして兄弟たちがエルサレムにとどまっていたら、約束どおりいと高きところから力を着せられた。つまり聖霊が送られてきた。聖霊をいただきながらペテロが語っています。集まってきた人たちにも聖霊が働いておられます。だから人々は心を刺されるのです。

このところを読むと、突然大きな音がしたり、突然、外国語を知らなかった人が語り始めたりする光景にだけに目が留まり驚いてしまいます。でもよく見ると、人が救われることが最大の目的だったのです。そのために聖霊が働いておられたことに気がつきます。

2 どうしたらよいでしょうか

1) 悔い改めなさい

心刺された人々はペテロに尋ねます。「兄弟たち。私たちはどうしたらよいでしょうか。」これに対し、ペテロは三つのことを教えています。

一つ目。「悔い改めなさい。」この日本語は、「悔いる」と「改める」と二つのことばでできています。これは少し誤解を与えるかもしれません。どういうことか、ペテロの例を挙げて説明します。彼はいつどのように悔い改めたのかです。彼はイエスを三度否定して、裁判が行われている庭から逃げ出したとき鶏が鳴く声を聞きました。その瞬間、イエスのことばを思い出して泣き出します。自分のしたことを後悔したということです。そこまではよい。では彼はその後、改めたのか。これではいけないと思って、裁判の庭に戻ったか。いいえ。そんなことはしていません。むしろ家に隠れます。改めるどころではない。ではイエスはどうしたか。そんなペテロにもよみがえられた姿を見せてくださり、聖霊を与えました。そうしてペテロは変えられていきます。ということは、彼は自分で自分を改めたのではない。神の力によって改めさせられた。その方が正しい言い方になります。

こうして見ると、私たちがやれることは一つだけ。自分は取り返しができないひどい罪を犯してしまった。そのことを真正面から受

けとめて、悲しむこと。改めることには、自分ですることではない。いや、そもそもできない。ときどき、罪を止めてから神の前に出ますとか、罪を止めなければ赦してもらえないと言う方がいます。そんなふうに難しく考える必要はありません。止めるかどうかはまず一旦横に置いて、とにかくこのままの自分では駄目だと思う。そこから始まります。

2) バプテスマを受けなさい

そうしてから二つ目になります。「罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。」自分の罪を悲しむだけで、その先に何の解決もないなら、悔い改めることなど無駄です。でも聖書はその先に解決があると言う。あなたの罪は赦される。そのために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。

どうしてバプテスマなのか。不思議に思うかもしれません。イエスご自身も私たちとおなじ罪人の立場を取られ、ヨルダン川で罪の赦しのための悔い改めを現すバプテスマを受けたからです。それが一つの説明です。でもそれだけではびんと来ません。

救いは心に信じて口で告白して受けるものですが、ただ心の中で救いをいただくのではない。救いは私たちの体全体に及びます。聖餐式でパンと杯をいただくのもそうでしょう。水の中に全身を浸して、古い自分が死んだことを現し、水から上がることによって、新しい自分としてもう一度よみがえっていく。生まれ変わることを現します。それはただ形だけの儀式のように見えます。でもそれは、やがてイエスが再び来られて救いが完成されるときに、私たちが経験することなのです。それを先取りしてあらかじめバプテス

マという形で味わっていく。そのような意味も込められています。

3) そうすれば、聖霊を受けます

そしてペテロが語ったことの三つ目。「そうすれば、賜物として聖霊を受けるでしょう。」洗礼を受けて新しく生まれ変わったら、後は自分の力で生きてください、ではない。キリスト者となったとしても、いろいろな困難にぶつかる。イエスを見失いかけることもある。信仰が弱くなったり、罪の誘惑に陥ることもあります。神は、私たちがこの罪の世界でどれだけ苦勞するかよくご存じです。だから聖霊を与えます。聖霊は私たちのうちに住んでくださって、イエスを見失わないように励ましてくださいませ。それも「がんばれ」とか「なにやっているんだ」というように、安全なところに立って高いところから言うのではない。私たちの心の内に住んでくださる。そこはきれいなところか。とんでもない。汚いところですよ。そこでいっしょに苦しんでくださり、いっしょにうめいてくださる。それが聖霊だということです。

3 聖霊を受けているしるし

ほんとうだろうか。私には聖霊がないのではないか。そうおっしゃる方もいます。無理ありません。聖霊は姿形もなければ、においもない。誠につかみ所がなくてわかりにくい。どうやったら自分の中にも聖霊が住んでおられるとわかるか。聖書に書いてあります。この日救われ、聖霊をいただいた人たち、このあとどうなりますか。46, 47 節。「そして毎日心一つにして宮に集まり、家でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、神を讃美し、すべての民に好意を持たれた。

主も毎日救われる人々を仲間に加えてくださった。」

救われた人たちは何をしたか。ばらばら各自で信仰を守っていたのではない。集まっています。キリスト者は羊飼いのいる囲いの中に集められ、そこでパンを裂き、ともに食事をし、礼拝をしていく。おわかりのとおり、これは今私たちが教会でしていることそのままです。ということはどういうことか。もし皆さんが教会に集い、礼拝をささげ、ともに交わっているのなら、そのことによって聖霊をいただいていることがわかる。なんだ、あたりまえのことではないか。少し残念に思ったかもしれない。でもよく考えれば実に不思議でないですか。牧師が言うのも変ですが、日曜日の午前中にわざわざ時間を割いてそれも毎週教会に通ってくる。「礼拝に来なさい」と言ったわけでもないのに、皆さんがやってくるを見て私は毎週驚きます。ここに皆さんが座っていること、それ自体が聖霊の働きだとしか思えない。私はここに立って、毎週奇蹟を見させていただいていると、つくづく感じます。

天から風が吹くような激しい音がするわけではありません。突然皆さんがあらゆる外国語でしゃべり出すわけでもない。いつもの礼拝です。それでもいまここに、聖霊が天から注がれています。

話はそこで終わりません。皆さんはまったく意識していなかったかもしれませんが、積極的に神の働きに携わっていたことにもなる。皆さんがここに座っている。ただそれだけなのですが、その事実が、主がよみがえられたことを証ししていたのです。なぜなら、主がよみがえられなかったなら聖霊は送られてこなかったし、聖霊の働きがなければ、

教会に来ることは絶対にはないからです。

主がよみがえったことを十分に信じられなかったとしても、主はそのような不信仰な者さえも用いてくださっている。神の不思議なみわざを改めて覚えさせられます。